



No. 13, March, 2004

日本高等教育学会ニューズレター

Japanese Association of Higher Education Research

目次

- ・阿部美哉先生追悼文
- ・第7回大会のご案内
 - 大会開催校からのお知らせ
 - 課題研究について
- ・研究紀要編集委員会報告
- ・理事会報告
- ・報告事項

審議事項

- ・日中高等教育フォーラムをおえて
- ・研究交流集会をおえて
- ・事務局だより
- ・会費納入のお願い

阿部さんを悼む

天野郁夫

阿部美哉理事が逝去された。学会の発起人の一人であり、本年度の大会校を引き受けてくださっていた。私にとっては年来の友人であり、研究者仲間であった。言葉にならないほどに痛恨の思いである。

阿部さんといふ、どのように出会ったのか、記憶は定かではない。しかし気が付いたときには大学時代、いやそれ以前からの友人であったかのように議論し、だべり、飲んでいた。同じ世代だったということもある。喜多村和之さんと3人、『IDE 現代の高等教育』誌の編集にかかわり、IDE 文献研究会の世話人をし、高等教育研究所の研究プロジェクトに加わり、一時は毎週のように顔を合わせていた。終われば必ずといってよいほど、酒になる。阿部さんは、奥様から禁酒を命じられていても、「ちょっとだけ」がいつしか二杯になり、三杯になってしまう。いつも変わらず、楽しい酒だった。

一流の宗教学者である阿部さんが、どうして高等教育研究の世界に足を踏み入れることになったのか、残念ながら聞きそびれてしまった。天城勲 IDE 会長との、文部省以来のかかわりがあったことは想像に難くない。日本学術振興会、放送教育開発センター（現・メディア教育開発センター）と、阿部さんと天城先生には「同行二人」という感があった。その行く先々で、私を含めて高等教育研究者たちは、阿部さんのお世話になった。天賦の語学の才を持つ阿部さんに、どれだけ講演会の通訳や外国文献の紹介、さらには論文の執筆をお願いしたことか。いつも気軽に引き受けてくれる阿部さんに助けられたことは、数知れない。

ルドルフの大著について、玉川大学出版部の編集者から「誰か翻訳してくれる人は」と聞かれたときも、「阿部さん以外にいないよ」と、今から思えば余計な事をついつい言ってしまった。その『アメリカ大学史』の翻訳が、阿部さんの最後の仕事になった。病を押しての仕事だった。その見事な訳業について阿部さんの生前に、『IDE 現代の高等教育』誌に紹介の一文を書かせていただいたのが、せめてもの慰めである。

ともに酒をくむ仲間がまたひとり、少なくなった。哀しみは、時とともに増す。心よりご冥福を祈りたい。

第7回大会のご案内

第7回大会の開催について

大会準備委員会委員長

平林勝政

会員の皆様には、前号ニューズレターにてご案内いたしましたとおり、本年7月24日（土）、25日（日）の両日にわたって、本学会の第7回大会を國學院大學 120周年記念2号館（東京都渋谷区）において開催いたします。

國學院大學は、平成14年に創立120周年を迎え、その記念事業の一つとして渋谷キャンパスの再開発が行われております。本年の学会は、例年に比べ2ヶ月ほど遅い日程となっておりますが、7月に竣工が予定されております2号館の柿落としを兼ねた開催となります。会員の皆様に、最新の教育ファシリティを提供できることと確信いたしております。

前号ニューズレターにて阿部美哉本学前学長が申しておりますように「(学会)設立時からの理事で大会を開催していないのは國學院大學のみとなった」こともあり、本年度の大会開催をお引き受けしたわけではありますが、すでに皆様もご存じのとおり、阿部前学長は、平成15年12月1日、66歳の若さで急逝されました。國學院大學といたしましては「阿部先生のご遺志を叶え、阿部イズムの継承」するべく、本学における開催を学会理事会にあらためてお願いし、そのご理解を得たところでございます。なにぶん不慣れな準備委員会のため、皆様にはご不便をおかけすることが多々あるかと存じますが、理事会や執行部のご助力、ご協力をいただきながら、鋭意準備をとりすすめておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、第7回大会は下記概要にて開催いたします。会員の皆様方の研究により、混迷する日本高等教育界の指針となるような研究発表の多数の応募と、夏の大会での熱い討論を祈念しております。なお大会に関する情報は、下記大会ホームページにてご確認ください。

<http://www2.kokugakuin.ac.jp/jaher2004>

大会日程

7月24日（土）

受付	9:15より
自由研究Ⅰ	10:00～12:00
自由研究Ⅱ	13:00～15:00

課題研究 I・II 15:10 ~ 17:40

I : 「国立大学法人の設計」

司会 江原武一 (京都大学)

II : 「大学の e-Learning 戦略のいま」

司会 池田輝政 (名古屋大学)

故阿部美哉学会理事・前國學院大學学長追悼記念行事

17:50 ~ 18:20

安蘇谷正彦國學院大學学長

館 昭 (大学評価・学位授与機構)

懇親会 : 18:30 ~ 20:30 (國學院大學院友会館ホール)

7月25日(日)

受付 9:15 より

自由研究 III 10:00 ~ 12:00

総会 13:00 ~ 13:30

シンポジウム 13:40 ~ 16:30

「職業大学院の現状と将来」

司会 天野郁夫 (国立学校財務センター)

山田礼子 (同志社大学)

桑原敏明 (昭和女子大学)

平林勝政 (國學院大學)

課題研究 I 「国立大学法人の設計」

2003 (平成 15) 年 7 月 9 日に「国立大学法人法」が成立し、わが国の国立大学は 2004 年 4 月から法人化されることに決まった。国立大学の人事、財務、運営の体制が根本から変わる大改革となる。法人化に対する根強い批判もさることながら、実施が近づくにつれ当初の構想、喧伝されていた内容とは異なる点も増えてきた。行政改革の一環として始まった国立大学の法人化は、当初は独立行政法人化の枠組みの下で議論が進められた。それが後に大学の独自性を考慮した「国立大学法人」構想へ変わり、現在はまた、厳しい財政事情を背景に行政改革色が一段と強まっている。

今回の課題研究では、国立大学法人化の「構想」とは何であったのか、当初どのような設計がなされたのか、まずその内容を確認したい。独立行政法人との違い、構想本来の特色、そして「構想」から「国立大学法人法案」にいたるまでの変容をさぐり、そのズレについても明らかにしたい。報告者は 3 名、羽田貴史氏には高等教育研究者の観点からこれまでの経過を、梶山千里氏には国立大学協会法人化特別委員会の初期からのメンバーとして、また国立大学長としての当事者の立場から、そして合田隆史氏には「国立大学法人化構想」が浮上した当時の大学課長として、それぞれご報告をいただき、「国立大学法人の設計」当時と現在を比較分析してみたい。

多くの会員の参加と活発な討論を期待している。

(荒井克弘)

課題研究 II テーマ

1. 大学の e-Learning 戦略のいま

2. 趣旨

教育制度に関する文部科学省の規制緩和が進んでいるが、

その一つとして e-Learning を含めた遠隔学習の方法によって、学習者は自宅にいながら大学の学部卒業単位 124 単位のうち 60 単位までを取得できることになった。これは生涯学習としての大学教育の発展を先取りする制度の一つである。

現状においては、e-Learning による遠隔学習の方法を採用する大学はきわめて少ないが、IT の導入による対面型授業の質の改善また授業対象の拡大などを中心に、各大学の e-Learning 戦略は徐々に形成され具体化されつつある。

今回の課題研究では、標記のタイトルで日本における各大学の e-Learning 戦略を知り、その実現のための問題点と課題を整理し共有しておくことにしたい。(池田輝政)

3. 報告者

吉田 文 (メディア教育開発センター教授)

国立大学関係者

阿部 和厚 (北海道医療大学教授)

指定討論者 : 細川敏幸 (北海道大学助教授)

司会 : 池田輝政 (名古屋大学教授)

研究紀要編集委員会報告

15 件の投稿、3 件の採択。

研究紀要第 7 号に対する投稿は、前回のニューズレターで報告したとおり、締め切りを半月延ばして昨年 10 月 31 日としました。その効果ではないでしょうが、これまでにない数の 15 件の投稿がありました。委員会における、1 件当たり 3 名による査読及びそれに基づく委員会における審議による、投稿者匿名での、慎重審査の結果、12 月 22 日の委員会で、「採択」0 件、「採択に値するが、修正が必要である」2 件、「修正がなされた場合、採択の可能性はある」1 件、「不採択であるが、問題点を改善しての再投稿を勧める」12 件、「不採択」0 件の結論を得て、12 月 28 日に通知を発送しました。さらに、修正がいとされていた 3 件の再提出を受け、再査読、再審査を行い、2 月 9 日に 3 件全部の採択を決定、通知に漕ぎ着けました。

「不採択であるが、問題点を改善しての再投稿を勧める」が 12 件と多くなりましたが、いずれも興味深く、重要な課題を扱ったものでした。ただ、残念ながら、短期間の手直しではすまない問題点があると判断したもので、査読者には具体的なコメントをつける労を取ってもらいました。そこには、再度の投稿をいただけることへの願いが、込められています。

この様にして、当該の紀要は、特集を含め、本年 4 月中の刊行を目指し、鋭意、編集作業を進めています。

(館、安原)

理事会報告

第 27 回理事会報告

第 27 回理事会が 2003 年 10 月 27 日 (月) 15:00 ~ 17:30 に開かれ、以下の事項が報告・審議されました。

報告事項

1 日本高等教育学会事務局が東京大学大学総合教育研究

センターから筑波大学大学研究センターに移転したことについて、山本事務局より学会事務局の引継ぎ手続きが終了したとの報告があった。

2 理事会・編集委員会出席に係る交通費の支払いについて

今年度の交通費支払いについて、これまで支払っていない近距離（東京 23 区以外）を含め、他の用務での旅費・宿泊費が出ていない場合について、本人の申し出にもとづき、個々の理事・編集委員について予め算定した定額概算払い・銀行振り込み方式で支払うことが報告された。

3. 理事会の開催日程・時刻について日帰り旅行を可能とする時間帯での開催について、理事間の日程調整の際に各理事の出欠状況をみて対処するとの報告があった。

審議事項

1. 2004 年度日本高等教育学会年次大会課題研究について

江原理事から荒井理事（文責）による資料にもとづいて、（1）「国立大学法人化」第 1 回 - 法人化法をめぐって -、（2）大学の e-learning 戦略のいま、（3）教養教育の評価をめぐって、の 3 つの課題研究が提案された。審議の結果、課題研究担当理事の間での優先順位が（2）（1）（3）であったため、（1）「国立大学法人化」と（2）「e-ラーニング」案が 2004 年度課題研究として採択された。

2 日中高等教育フォーラムについて

有本理事よりフォーラム開催について、開催日程（11 月 25 日～28 日）の確認があった。またこの際、参加者の旅費・宿泊費等を自己負担によるものとする旨の提案があり了承された。

3 新企画について

馬越理事より 12 月 21 日開催予定の研究交流集会についての提案があった。一般参加者を 25～30 名程度予定しており（発表者及びコメンテータは 10 名程度）、「参加費用を徴収しては」との意見もあったが、参加費無料で開催することで了承された。

4 年次大会について

國學院大学の平林勝政副学長より、神戸大学からの引継ぎが終了し、平成 16 年度 7 月 24 日開催にむけて現在体制を整えているとの報告があった。また次回の大会テーマは「専門職大学院」とすることで承認された。関連して、年次大会開催までのスケジュールは概ね承認されたが、4 月に開催予定だった第 29 回理事会については 5 月中旬に変更され、それまでに國學院大学が大会プログラムを作成し、第 29 回理事会においてプログラム内容を決定することとなった。大会案内発送は 2 月末、申込み締め切りは 4 月末とし、大会プログラムを 5 月末には送付することで承認された。

5 入退会の申し込みについて

加藤事務局幹事より、新規入会および大会申し込みについ

て、別紙のように報告があり了承された。ただし入会申し込み者 1 名については会費未納であったため、会費の納入を条件に入会を認めることになった。

第 28 回理事会報告

第 28 回理事会が、2004 年 2 月 13 日（金）19:00～21:30 に開かれ、阿部美哉理事のご逝去に対して弔意を示した後、概ね以下のような事項が報告・審議されました。

報告事項

1 日中高等教育フォーラムについては、有本理事（当日欠席）からのメッセージが紹介されました。詳細は、次項の記事の通りです。

2 紀要編集委員会から、本ニューズレターに掲載の通り、報告がなされました。

3 その他事務局から、所要の報告を行ないました。

審議事項

1. 16 年度事業計画について

課題研究は、本ニューズレターの第 7 回大会案内に記載の通り、計画の基本が了承されました。また、新企画（研究交流集会）について、継続実施に向けて検討を続けることが了承されました。また、外国からの訪問者等国際関係への対応方針について、意見交換が行なわれました。

2. 第 7 回大会については、國學院大学から準備の進捗状況について聴くとともに、その計画の概要を承知し、引き続き学会本部としても協力する旨申し合わせました。

大会の概要は、本ニューズレター記載の通りです。

3. 入退会の申し込みについて、理事会で承認をしました。具体的な氏名は本ニューズレター記載の通りです。

日中高等教育フォーラムをおえて

日中高等教育フォーラムは、日本高等教育学会および中国高等教育研究会の共催によって、2003 年 11 月 25-27 日に、上海師範大学の国際交流センター等において行われ、盛会裏に終了した。日本側からは、有本章（広島大学）、金子元久（東京大学）、山本真一（筑波大学）、江原武一（京都大学）、山野井敦徳（広島大学）、浜名篤（関西国際大学）、浦田広朗（麗澤大学）、小林雅之（東京大学）、大場淳（広島大学）、黄福涛（広島大学）、米澤彰純（大学評価・学位授与機構）の各氏が参加した。中国側からは、楊徳広（上海師範大学）、冒榮（南京大学）、顧建民（浙江大学）、鄔大光（廈門大学）、陳国良（上海教育科学研究院）、王偉廉（汕頭大学）、謝安邦（華東師範大学）、熊慶年（復旦大学）、田玲（北京大学）の各氏をはじめ全国からオブザーバー参加した方々を含め 40 名程度が出席した。

25 日の開会式では、上海師範大学党委主席、日本高等教育学会代表の挨拶が行われた。基調講演が日本側から有本（前日本高等教育学会会長）と中国側から楊（中国高等教育研究会理事長）の各氏によって行われた。続く

「高等教育評価」セッションでは浜名、冒、米澤、顧、「高等教育財政」セッションでは浦田、小林、鄒、陳の各氏がそれぞれ報告し、議論を行った。上海師範大学長招待のレセプションでは両学会による記念品交換が行われ、第1日目を終了した。

26日は、基調講演が日本側の金子、中国側かの王の各氏によって行われた。「大学カリキュラム」セッションでは黄、江原、謝、別、「高等教育管理」セッションでは山本、熊、大場、田の各氏がそれぞれ報告した。最後に総括が有本、楊両氏によって行われた。晩餐会が外賓楼において行われた。

27日は、上海地区の6大学が集積しつつある大学タウンの松江大学城への見学が行われた後、豫園、黄浦江観光が行われ、すべての行事を滞りなく終了した。

以上、紙面の関係で、メモ程度の報告になったが、フォーラムは期待した以上に成功裏に全日程を終えることができた。それは、内容的に日中両国から立派な報告が行われたこと、楊理事長を中心に中国側とりわけ上海師範大学の行き届いた運営が行われたこと、などのお陰である。報告の内容に関しては、中国側で報告書にまとめられる予定である。

最後に、SARSによる延期など、思わぬハプニングもあり、開催に漕ぎ着けるまで多少の苦労を伴ったが、日中高等教育研究交流の成果を収めたことは、何よりも矢野眞和会長、理事会、国際交流部をはじめ日本高等教育学会を挙げての取り組み、ご支援の賜である。実行委員会を代表して深く感謝する次第である。また両国間の折衝の実務を担当した黄福涛、高耀明（上海師範大学）の両氏には早期開催に向けてご尽力いただいたことを付記し、感謝の意を表したい。なお、中国側からは日本での次回開催を希望するとの要望があった。

（有本 章）

研究交流集会をおえて

さる12月21日（日）学会としては初めての試みとして、筑波大学大学研究センターで研究交流集会を開催しました。

この集会は、矢野新会長のもと、新しい学会活性化のための試みとして始めたものです。学会大会では十分な質疑の時間がとれないことを補完し、中堅・若手会員に発表の場をさらに提供し、コメントを発表者の希望する会員に依頼して、十分議論できる機会をつくろうというコンセプトで、馬越、金子、濱名、山田の企画担当理事に、中堅・若手の阿曾沼

（名古屋大）、小方（広島大）、沖（早稲田大）、加藤（筑波大）、島（国立学校財務センター）、秦（滋賀大）、橋本（東北大）各企画委員が加わって、企画運営を行い、下記の5報告が行われ、39名の参加者がありました。

- 1) 加藤毅（前出）「高等教育研究における『合理的なるもの』をもとめて」
コメンテーター：潮木守一（桜美林大）
- 2) 林未央（東大院）「アメリカにおける高等教育就学行動の多様化と政策課題」コメンテーター：館昭（大学評価・学位授与機構）
- 3) 沖清豪（前出）「文学部における教育課程の考察」
コメンテーター：山田礼子（同志社大）
- 4) 島一則（前出）「国立大学における学内資源配分に関する実証研究」
コメンテーター：羽田貴史（広島大）
- 5) 小方直幸（前出）「新卒派遣 - 大学と職業をつなぐ新しい仕組み」
コメンテーター：小杉礼子（労働政策研究・研修機構）

参加者からの感想は好評であり、特に多くの参加者より、学会と比べ質疑の時間が取れ、良い機会になったという声や、報告者からはコメンテーターを選んでお願いできて良いなど、好意的な声が寄せられました。反面、HPへの掲載が予定より遅れたことや、ニューズレター段階の情報が不十分であったため、告知は十分ではなかった点や、もっと時間をかけるべきだという声もありました。

理事会では、次年度の実施時期の検討も含め、継続実施に向けて検討を続けていくことが了承されました。

（濱名 篤）

事務局だより

会費納入のお願い

2003年度会費納入を受け付けております。未納の方は、既にお手元にお送りいたしました郵便振替用紙か郵便局備え付けの普通払込書用紙をご利用になり、下記振込先までお送りくださいますようお願いいたします。

口座番号 01320-9-2987
加入者名 日本高等教育学会事務局



訃報

本学会会員・理事の阿部美哉会員が、2003年12月1日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

本学会会員の松田浩一会員が、2003年1月18日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

日本高等教育学会ニュースレター No.13

発行日 2004年3月15日
発行所 日本高等教育学会事務局
事務局長 山本眞一
事務局 筑波大学大学教育研究センター内
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1
電話 03-3942-6304 FAX 03-3942-6310

Email: jaher@he.u-tokyo.ac.jp
URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaher/>

印刷所 生々文献サービス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄谷 3-13-22-410
電話 03-3478-4062、Fax 03-3423-4338
Email: seiseibunken@nifty.com